

日本職業教育学会
第77回 関東地区部会

報告集

2024年8月17日(土)

於: オンライン

研究会プログラム

田中 萬年

「三好信浩著『教育観の再検討
ーよき仕事人を育てるー』を読む

1

三好信浩著『教育観の転換―よき仕事人を育てる―』を読む

（二〇二三年八月発行、A五版一七二頁、風間書房、二五〇〇円＋税）

田中 萬年（元職業能力開発総合大学校）

三好先生の「単著一覽」（☆印は文部省学術出版助成図書）

The Collected Writing of Henry Dyer 全五巻：ヘンリー・ダイアーの著作集

Henry Dyer: Pioneer of Engineering Education in Japan : ダイアーの伝記

- 1 『イギリス公教育の歴史的構造』 亜紀書房、一九六八年☆
- 2 『教師教育の成立と発展―アメリカ教師教育制度史論』 東洋館出版社、一九七二年☆
- 3 『イギリス労働党公教育政策史』 亜紀書房、一九七四年☆
- 4 『日本工業教育成立史の研究―近代日本の工業化と教育』 風間書房、一九七九年☆ 増補版、二〇一二年
- 5 『日本農業教育成立史の研究―日本農業の近代化と教育』 風間書房、一九八二年☆ 増補版、二〇一二年
- 6 『明治のエンジニア教育―日本とイギリスのちがい』 中央公論社（中公新書）、一九八三年
- 7 『日本商業教育成立史の研究―日本商業の近代化と教育』 風間書房、一九八五年☆ 増補版、二〇一二年
- 8 『日本教育の開国―外国教師と近代日本』 福村出版、一九八六年
- 9 『商売往来の世界―日本型「商人」の原像をさぐる』 日本放送出版協会（NHKブックス）、一九八七年
- 10 『ダイアーの日本』 異文化接触と日本の教育③、福村出版、一九八九年
- 11 『日本師範教育史の構造―地域実態史からの解析』 東洋館出版社、一九九一年☆
- 12 『近代日本産業啓蒙書の研究―日本産業啓蒙史上巻』 風間書房、一九九二年☆
- 13 『近代日本産果啓蒙家の研究―日本産業啓蒙史下巻』 風間弁労、一九九五年☆
- 14 『私の万時簿―広島大学最終講義』 風間書房、一九九六年
- 15 『手島精一と日本工業教育発達史―産業教育人物史研究Ⅰ』 風間書房、一九九九年☆
- 16 『日本の女性と産業教育―近代産業社会における女性の役割』 東信堂、二〇〇〇年
- 17 『横井時敬と日本農業教育発達史―産業教育人物史研究Ⅱ』 風間書房、二〇〇〇年
- 18 『渋沢栄一と日本商業教育発達史―産業教育人物史研究Ⅲ』 風間書房、二〇〇一年
- 19 『日本工業教育発達史の研究』 風間書房、二〇〇五年☆
- 20 『日本農業教育発達史の研究』 風間書房、二〇一二年
- 21 『日本商業教育発達史の研究』 風間書房、二〇一二年
- 22 『日本女子産業教育史の研究』 風間書房、二〇一二年

- 23 『産業教育地域実態史の研究』 風間書房、二〇一二年
- 24 『納富介次郎』 佐賀偉人伝10、佐賀城本丸歴史館、二〇一三年
- 25 『日本の産業教育―歴史からの展望』 名古屋大学出版会、二〇一六年
- 26 『愛知の産業教育―産業立県の教育モデル』 風媒社、二〇一八年
- 27 『現代に生きる大蔵永常―農書にみる実践哲学』 農山漁村文化協会、二〇一八年
- 28 『産業教育学―産業界と教育界の架け橋』 風間書房、二〇二〇年
- 29 『手島精一―渋沢栄一が敬愛した日本の名校長』 青蘭舎、二〇二二年

三好信浩著

産業教育史学研究 全十三冊



風間書房創業80周年記念出版

A5判・上製・函入 総頁七、六一〇頁
 揃定價二〇一、三九〇円 分売可



著者紹介

（略歴）
 一九三二年 大分県日田市に生まれる
 一九五六年 広島大学教育学部教育学科卒業
 一九六一年 同大学院教育学研究科博士課程修了
 茨城大学教育学部、大阪市立大学文学部助教
 一九七四年 広島大学教育学部助教
 一九八一年 同教授、その間広島大学学生部長
 一九九六年 甲南女子大学文学部教授
 二〇〇二年 比治山大学、同短期大学学長
 二〇〇五年 退職後は著述活動に専念、今日に至る
 広島大学名誉教授、比治山大学名誉教授、教育学博士

風間書房 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34 / 電話 03-3291-5729 / FAX 03-3291-5757
 E-mail pub@kazamashobo.co.jp http://www.kazamashobo.co.jp

*『産業教育史学研究』は全13冊の単体の名称です。ご注文の際は個々の書目をご記入下さい。

風間書房※注文書	『 <input type="checkbox"/> 』を(冊)注文します。	●書店印
	『 <input type="checkbox"/> 』を(冊)注文します。	
	『 <input type="checkbox"/> 』を(冊)注文します。	
	お名前	TEL
ご住所		

産業社会を創り出す
 人間教育の本質に迫る

三好信浩著

産業教育史学研究

全十三冊

A5判・上製・函入 総頁七、六一〇頁 揃定價二〇一、三九〇円 分売可

〈風間書房創業八十周年記念出版〉

風間書房

<受賞者の喜びの声>

○細谷賞

三好信浩

予想だにしていなかっただけに、専門学会からこのような賞を頂けることは、研究者として至上のよろこびであります。寺田盛紀会長が本学会誌に発表された「産業教育・職業教育学の形成・発展・課題」は、本学会の性格や課題を実に的確に言い当てていて、何度も読み返しました。

そして気づきましたことは、この学会のテリトリーの広さや方法論の多様さなどに加えて、Education と Training を接合させるという難題を抱えていることです。細谷俊夫先生は技術教育と称し、隅谷三喜男先生は職業訓練と称しました。それなら何とか追従ができますが、寺田会長の言う両者の結合は骨の折れる作業であり、これまでの学会員の地道な取り組みに敬意を表します。

私自身は、学校における産業教育の歴史研究から入りました。日本の、少なくとも戦前期の日本で世界に類例を見ない規模で発達した産業系学校では、意外にも、教育の中に産業の心や術(わざ)を取り込む努力がなされていました。民衆は、生活や生業(なりわい)の中から立ち上がる、いわば陽炎(かげろう)のような学習観を抱いていて、教育者たちがそれにこたえたためだと思えます。

自己および家族の生活のために、一人前になりたい、自立したいという民衆の本源的な願望をみたすために、学校は何を教え、社会とどう練携するかという知恵は存外と身近なところに見出せるのではないのでしょうか。

この名誉ある賞を機に、私もまた一臂の努力を続けたいと思います。
(広島大学名誉教授)

『産業教育学研究』2015年1月号



三好信浩会員

細谷賞（学会賞）

三好信浩『産業教育史学研究全 13 冊』（風間書房・2012 年）

（受賞理由）

三好会員は 1979 年風間書房より『日本工業教育成立史の研究』を上梓して以来、日本農業教育、日本商業教育についても同様の著作を刊行した上に『日本工業教育発達史の研究』『日本農業教育発達史の研究』『日本商業教育発達史の研究』でもって先の 3 部作研究を深化・発展され、そして工・農・商業教育について各重要人物についての研究書をもものされ、また産業啓蒙書及び啓蒙家の研究書をも出され、その上日本女子産業教育についての研究書と産業教育地域実態史についても研究をまとめられた。これら産業教育史学にかかわる長年の研究著作は全 13 冊に及び、2012 年に風間書房より改めて全冊刊行されたのである。これらは何れも膨大な資料を駆使し卓抜な産業教育学的考察によってまとめられたものであり、産業教育学の研究を志す者にとっては避けて通れないうずたかい業績となっている。本学会に取ってのかけがえのない研究的財産でもある。そのことをこのたび高く評価して本年度細谷賞を三好会員へ授与することとなった。

三好先生のエピソード



受験生の方 | 在学生・教職員の方 | 卒業生の方 | 保護者の方 | 一般・1

資料請求 | お問い合わせ |

ところで、三好先生については、事のついでに是非とも触れたい写真があります。いつぞやお宅にお邪魔したとき拝見し、感動の余り写真を撮らせて下さるようお願いしたものです。一見すると、小さな虫か何かの集まり、あるいは海苔で巻いた「おかき」のようにも見えますが、実はごく短くなった鉛筆なのです。最近でも使われるのかどうか知りませんが、少し短くなった鉛筆を使い続けるための延長ホルダーに入れて、本当に最後の最後まで使ったものです。儉約と言えば、これほどの儉約はないでしょう。おそらくこんなになるまで鉛筆を徹底して使い込まれ、次々と新たな作品を生み出されたのでしょう。ワープロやパソコンが登場し、再考や修正が比較的容易になったのをよそ目に、今日までずっと、じっくりと思索を重ねた上、手書きでびっしり書かれた大作の原稿が目に見えます。



三好信浩先生の「産業教育学」研究の立場

『産業教育学―産業界と教育界の架け橋―』の「まえがき」より
なぜ先行研究が少ないのか。その理由は多々あると思うがその一つは、敗戦直後の日本では産業界と教育界と疎遠であったことに原因があったからだと思う。産業界を代表する日経連と教育界を代表する日教組とは、文教政策をめぐって対立した。教育界としては、戦前期の軍国主義教育への反省から、政治や資本の側から出る教育要求への反発があった。教育学者や教職員の多くがこれに組した。その結果、戦後、特に経済成長期に入った以後の日本の、主要な教育政策の決定に際しては、教育界の意見が反映されなくなった。しかし、時代が移るにつれて事情は徐々に変化し、今日では産学連携論が支持されるようになった。

教育学を専攻する私としては、イデオロギー抜きでこの問題に切り込んでみたいと考えた。学問としては未解明なこの難題に挑戦するには、私自身の研究視座を明確にしておく必要がある。自己の力量の限界を考えたくて、テリトリーは、産業を工・農・商の三業に限定すること、アプローチは教育史研究の方法を採用することにした。日本人が産業界の人となるのに、どのような教育的営為が作用したのか、その際の思想と実践を歴史的に追跡することを通して、日本の産業教育の特質を明らかにし、その中に潜む課題と将来への指針を探り出そうと考えた。

目次

第九章 学校外産業教育論

1 年季徒弟論

2 企業内教育論

3 公共職業訓練論

4 学校外教育と学校教育の関係論

第一〇章 産業系人間育成論

1 産業人の知性と技術

2 産業人の精神と行動

3 産業人の倫理と品性

4 よき仕事人の条件

146 人間教育の最終目標は何か。諸説がある中で、筆者はいささか独断的であるとそれられることを覚悟のうえで、それは、「よき仕事人を育てる」ことだ、と答えたい。そこで、よき仕事人とはいかなる人間であるかが問われる。

筆者の考えでは、それは大別して五種に分かれると思う。①生産・流通、②医療・福祉、③公共・公務、④法曹・警備、⑤文化・芸術、の仕事人である。これらの仕事人は、いずれも人間社会を成り立たせるのに必要不可欠であるが、その中でも特に原初的で基盤的な仕事人は、①の生産・流通の仕事人である。コリン・クラークのいう、第一次から第三次までの産業に従事する仕事人である。

5 産業系学校の改革課題

『産業教育学』をご恵送下さった同封の書状に記された感想と歌

「『高著から多くのことをまなばせて頂いております。』

へ感懐の一首▽分けのぼる 麓の道は変われども

同じ高嶺の 月を見むかな

..... ※

教育観の転換

— よき仕事人を育てる —

三好信浩 著

多年にわたり産業教育の実証的研究を積み重ねてきた著者が、その間に「人間教育とは何か」を問い続け、最後に到達したのは、「よき仕事人を育てる」という結論である。

「知」や「技」などの蓄力も、果ては「人格」や「教養」も、人それぞれの適性と個性に合った仕事の中でまどめて花を開く。人生の薔棘と幸福と価値は仕事の中に生まれる。目先の些事にこだわることなく、長期的で大局的な教育観に転換することの必要性を平易に書き下ろした警世の一書である。

風間書房 定価(本体2500円+税)

「帯」の紹介文

多年にわたり産業教育の実証的研究を積み重ねてきた著者が、

その間に「人間教育とは何か」を問い続け、

最後に到達したのは、「よき仕事を育てる」という結論である。

本書の構成

本論 教育の真義

序章 教育とは何か

1 「教育」という言葉

2 よき仕事を育てる

第一章 江戸期仕事人の自修自営

1 「一人前」という願望

2 農業の仕事人

3 工業の仕事人

4 商業の仕事人

第二章 近代学校の仕事人教育

1 「学校王国」日本の誕生

2 医療人の学校

3 産業人の学校

4 教職人の学校

5 その他の仕事人の学校

第三章 仕事人の職業訓練

1 戦前・戦後の文教施策

2 戦前期の学校内実習

3 学校に準ずる職業系学校

4 企業内職業訓練

5 公共職業訓練

第四章 現代社会の仕事人育成

1 学校教育の現状と課題

2 職業訓練の現状と課題

3 産学官連携の現状と課題

4 キャリア教育の現状と課題

5 定年と無職の問題

結章 仕事とは何か

1 人生と仕事

2 仕事と教育

補論 成功の仕事人の仕事力

1 農書執筆の仕事人 大蔵永常

2 発明創作の仕事人 田中久重

3 独学創世の仕事人 渋沢栄一

4 学校創設の仕事人 H・ダイアー

5 学校経営の仕事人 手島精一

6 国際交流の仕事人 保良せき

7 地域創生の仕事人 大原孫三郎

8 農業系学卒の仕事人 横井時敬

9 工業系学卒の仕事人 土光敏夫

10 商業系学卒の仕事人 出光佐三

11 補論の補遺―10人の仕事人の共通点

三好信浩先生の拙論への評価…田中萬年のホームページ <http://noukai.stars.nc.jp/recruit.html>

二〇二三年七月三〇日付けの書状（八月一日受け）

「齒に衣を着せずに遠慮なくご叱声をお願いいたします。」

三好先生は残念ながら「二〇二四年一月末日に九一年の生涯を閉じられた。」という。疑問点を未だご教示戴きかったが、それは叶わなくなった。

本書の意義は、わが国教育学の質的な転換の必要性を明示した点にある。換言すれば、本書は職業訓練問題を尊重するか、看過するかの教育学研究の分水嶺としての歴史性があると見える。また、「よき仕事を育てる」とは職業訓練の課題でもあり、当然ながら、職業訓練関係者にとってもその論理を学び、論旨を活用できるところである。

三好信浩先生のご冥福をお祈りし、学恩に感謝し、先生の課題に稚拙な論で申し訳ないですがこの場を借りて感想を述べさせていただきます。